

8月臨時教育委員会 会議録

- 1 開催日 平成23年8月11日(木)
- 2 開催場所 新館9階 191会議室
- 3 出席した委員 神吉委員長、吉田委員、桃田委員、森委員、山本教育長
- 4 出席した職員 野上教育総務部長、田淵教育指導部長、小田教育総務部次長、岡本教育指導部次長、大西教育指導部参事、佐藤教育総務課長、松尾学校教育課長、日浦学校教育課副課長、山本指導主事、境指導主事、桐山指導主事、松尾指導主事、尾崎指導主事、稲岡教育総務課副課長
- 5 傍聴者 16名
- 6 議事の要旨
 - 開会 午後2時
 - 会議録署名委員指名のこと
神吉委員長、桃田委員に決定
 - 会議公開の可否決定のこと
全ての議事を公開することに決定

(協議事項)

- 1 平成24年度使用義務教育諸学校教科用図書採択について
(教育指導部長より説明)

(委員) : 今回の教科書の採択にあたっては、当然、「子ども達にとって学びやすい」ものであるかどうかは重要な点だが、「教師にとって教えやすい」ものであるかという点は考慮されているか。

- (事務局) : 今回の教科用図書の推薦のため、協議会が設置した各教科の調査員会の多くの班長から、「生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という視点を重視し、十分に考慮した調査研究を行ったと報告を受けている。
- (委員) : 昨年は小学校用教科書の採択、今年は中学校用教科書の採択を行うが、統一的な方針や、系統立った考え方はあるか。
- (事務局) : 全国学力学習状況調査の結果によって、加古川市の子ども達が今後身につけなければならない力を把握したうえで、小学校から中学校への学びの連続の達成という視点を重視し、教科書選定を行っている。
- (委員) : 系統を重視する中で、必ずしも小中学校と同じ出版社を選定しなければならないということはなく、加古川市の教育方針に則り教科書を選定した結果、異なる出版社になったとしてもよいと思うが、その選定における視点を、教師、生徒、保護者、市民にしっかりと伝えることが重要である。

【国語】

(事務局より答申書に基づき説明)

- (委員) : 「教育出版」から「光村図書」に変わるにあたり、教科書の特色の違い、また、「光村図書」が優れている部分はどこか。
- (事務局) : 指導要領の改訂により、どの教科書も指導要領の趣旨にそった内容の教材を取り上げている。
「光村図書」の特色としては、現代文では、哲学者、医者、写真家等の多彩なジャンルの著者の作品を掲載することで、生徒が多様な考え方に触れることができる構成になっている。
また、古典の表記を大きくするとともに、全文を口語訳せずに、国語3では、一部を生徒自らに考えさせるなど、発達段階に応じた配慮がなされている。

さらに、裏表紙には、「色いろの言葉」として、1つの色に対する表現が、美しく、繊細に紹介されており、古来、「日本語」の持つ多様な表現に触れることができ、言葉に対する日本人独特の感覚を養ううえでも配慮がなされている。

(委員) : 最近、携帯電話や電子メールの普及で、話し言葉を書き言葉に使ったり、尊敬語や謙譲語を適切に使用できない人の増加が指摘されるが、適切な言葉づかいを習得するためにどのような配慮がなされているか。

(事務局) : 推薦図書のうち「光村図書」の国語1は、「豊かな言葉」の中で文語詩と口語詩に触れたり、もっと伝わる表現を目指した「言葉集め」を行うことで語彙を増やす学習をする。また、文法で、言葉のきまり等について学習する。

国語2では、敬語や敬意の表現方法の学習、手紙の書き方等の生活に結びついた学習も取り入れている。

このように、より多くの言葉を知り、語彙を豊かにすることを通して、適切な言葉づかいや表現が、系統立てて学習できるように配慮されている。

(委員) : 昨今の若者の活字離れを防ぐために、どのような配慮がされているのか。

(事務局) : 推薦図書のうち「光村図書」では、国語1の読書案内が充実しており、多彩なジャンルの本の紹介をすることで、生徒の読書意欲の喚起に努めるような配慮がなされている。このようなコラムを活用しながら、子ども達の読書離れに歯止めをかけたいと考える。

(国語は、全会一致で「光村図書」の教科書を採択することに決定)

【書写】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 最近、大人も子どもも、漢字の筆順が乱れているように思えるが、筆順の指導はどうか。

(事務局) : 推薦図書のうち「光村図書」は、毛筆が硬筆の元となっているという観点から、楷書と行書での筆使いの指導を通して筆順にも触れながら指導するように配慮されている。

(委員) : 一般的に毛筆を持つ機会が減っている中、生徒に興味を持たせるためにどのような工夫が見られるか。
また、どの教科書も右利きの手本の写真しか掲載されていないが、左利きの生徒にはどのような指導をしているか。

(事務局) : 全ての教科書において、筆やペンの持ち方等は、右手をモデルで紹介されており、左利きがモデルとなった写真はない。ただ、実際の左利きの生徒に対しては、右利きにおける正しい持ち方として紹介するにとどめ、右で書くような強制した指導は行っていない。
また、毛筆を持つ機会が減少していることについては、七夕やお正月の書初め等の季節的な行事に合わせて毛筆を持つ指導を行ったり、年賀状を書く等の実生活において活きるような指導を心掛けている。

(書写は、全会一致で「光村図書」の教科書を採択することに決定)

【地理】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 「生徒の学習に取り組む意欲を引き出そうとする工夫」、また、「動態地誌的な学習」とは具体的にはどのようなものか。

(事務局) : 「動態地誌的」とは、学習指導要領の中で求められている手法で、メインテーマを決め、それを他のテーマと有機的に関連づけて学習を展開していく手法である。テーマ間の扱いに軽重をつけず学習を進めていく手法は「静態地誌的」とされる。
また、各社とも、生徒の学習に取り組む意欲を引き出そうと工夫しており、中でも「日本文教出版」は、各章のはじめの「ナビ」に2ページを割き、小学校の復習も兼ねつつ、新しい学習への視点が持てるよう工夫している。また、「日本とつながる」や「自由研究」なども生徒が地理学習に興味関心が持てるような内容で編集されている

(委員) : これまでは、取り扱われている日本の県や世界の国の数が少なかったが、学習指導要領の改訂が、教科書にどのように反映されているか。

(事務局) : 各社とも、改訂内容を生徒がより興味関心をもち、学習に取り組めるよう工夫している。中でも「日本文教出版」は、日本、世界ともにテーマが設定され、学習指導要領が求める動態地誌的な学習ができる工夫があり、その中で取り扱う県や国も多くなっている。

(委員) : 最新的话题をいかに取り入れ、活用していくかが重要だと考えるが、その点の配慮はあるのか。

(事務局) : この点について、どの教科書も力を入れているが、「日本文教出版」は、「地理ズームイン」にてヒートアイランド現象やゲリラ豪雨について、また、「地理+α」にて尖閣諸島について取り扱うなど、最新的话题を取り入れた補足的なコラムが充実している。

(地理は、全会一致で「日本文教出版」の教科書を採択することに決定)

【歴史】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 「東京書籍」の教科書のサイズが他のものよりも大きいですが、その効果や利点はどうか。

(事務局) : 大判化により提示資料が全体的に大きく豊富で、効果的な補足資料である「歴史にアクセス」などが適切に配置・構成され、見やすく、意欲的に生徒を学習に導く工夫がある。

(委員) : AB版になることにより、デメリットはないか。

(事務局) : 持ちやすさの点での意見はあるかもしれないが、それ以外の不都合は聞いていない。

(委員) : 今回の学習指導要領改訂のポイントでもある、歴史の大きな流れを理解するために、新しい教科書では、どのような工夫をしているか。

(事務局) : 2社ともに工夫が見られ、特に「東京書籍」は、「第1章 歴史のとらえ方」で、小学校から中学校への歴史学習の導入として、イラストで構成した「歴史の流れ」で、小学校で学んだ人物や文化財を手がかりに、楽しみながら歴史の流れを考えられるように構成されている。

また、章のはじめの年表と資料で、学習内容が大まかに把握でき、章末には学習の振り返りと、次章につなぐ形でまとめの年表があり、面白い構成になっている。

(委員) : 教育基本法や学習指導要領が改訂されていく中で、伝統、文化、宗教や風土を教えることについて、どのような工夫があるか。

(事務局) : 2社ともに工夫が見られ、特に「東京書籍」は、日本の文化の取り扱い方が、時代ごとに本文・資料ともに充実している。

また、日本が誇る文化財や世界遺産の資料が充実しており、「世界の古代文明と宗教のおこり」という欄では、キリスト教、イスラム教、仏教のおこりと広がり分かりやすく示されている。

(委員) : 先般、横浜市が「育鵬社」の教科書を採用したとの新聞記事があったが、今回の答申の中には「育鵬社」が挙げられていないが、その理由は。

(事務局) : 高校では日本史と世界史が分かれているが、中学校では歴史として一元的に学習する。協議会から、「育鵬社」の教科書は近現代史の学習は重視されているが、日本の歴史との関連での世界の歴史の取り扱いが不十分であるという指摘を受けている。

また、資料等にも生徒の興味関心を高めるものが少なく、考察する力や説明する力などの言語活動の学習への工夫が乏しいという報告を受けており、総合的に読物としては面白いが、教科書としては不足する部分があるとの意見であった。

(委員) : 「東京書籍」の教科書は資料が多く、歴史の流れを楽しみながら学べるという印象を受ける。

(歴史は、全会一致で「東京書籍」の教科書を採択することに決定)

【公民】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 指導要領改訂のポイントの一つである、生徒が社会に参画できる力を身につけるために、どのような工夫をしているか。

(事務局) : 2社ともに設定され、中でも「東京書籍」は、社会の変化に対応した課題を「深めよう」で扱い、「模擬裁判」などが説明されている。

また、社会科のまとめとして、課題の探求を通して社会形成参画への態度を育成することがねらいである「よりよい社会をめざして」では、「持続可能な社会」を形成するために、いくつかのテーマのもと探究の方法を「レポート作成」という形で詳しく解説してある。また、「探究を社会参画につなげる」では、4つの社会参画の例を取り上げ、自らの在り方について考えることができる。

(委員) : 最近、政治に無関心な若者が多いが、政治に興味を持たせるような工夫はされているか。

(事務局) : 2社とも工夫をしているが、特に「東京書籍」は、「公民にアクセス」で、インターネットによる住民参加、一票の格差などタイムリーで分かりやすい内容を取り上げ、「公民にチャレンジ」で、選挙シミュレーション、地方財政の変化を調べようなどの課題を示し、生徒の日常生活の中にある政治について学習することで、政治に興味関心が持てるよう配慮している。また、「わたしたちの政治参加」では、生徒が「まちづくり意見箱」を使って、提案したり、ボランティアに参加したりする活動を示し、「社会参画」を具体的にイメージすることができる。

(公民は、全会一致で「東京書籍」の教科書を採択することに決定)

【地図】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 地理だけではなく、歴史や公民でも活用できるようになっているか。

(事務局) : 2社ともに歴史、公民で活用できる地図を取り入れているが、特に「帝国書院」は、「大陸から日本を見わたす地図」など、かつての交流ルートや歴史地名・史跡名を記載した地図を用い、一般図に「重要な歴史地名・事項」を紫色の地図記号で示し、歴史的分野で活用しやすくなるよう配慮している。また、基礎資料図の「世界のエネルギー資源」や地域資料図の「アフリカの民族と紛争」「霞が関」など、公民的分野でも活用できる資料図を掲載している。

(委員) : 地理学習では、最新的话题を取り入れているが、地図においてもその点の配慮はあるのか。新しくできた国などは、しっかりと示されているのか。

(事務局) : どちらの教科書も発行時点の最新の情報に掲載するよう配慮されている。新しい話題として「帝国書院」は、「世界の環境問題」や「日本の自然環境」、「琵琶湖の水利用」など、環境に関する資料図が充実している。また、「おもなラムサール条約の登録湿地」や「世界遺産」など、環境や文化に関する地図記号を設けており、学習指導要領の改訂のポイントとなっている持続可能な社会の形成に関する地図・資料が充実している。

(委員) : 「帝国書院」の地図帳には、地図を活用する技能の習得において、学びやすさの工夫があるか。

(事務局) : 「地図帳の構成」「この地図帳の使い方」「地域の特色をとらえるポイント」など、活用のための手法が丁寧に説明されており、生徒にとって利用しやすく親切である。

(地図は、全会一致で「帝国書院」の教科書を採用することに決定)

【数学】

(事務局より答申書に基づき説明)

- (委員) : 数学的活動の楽しさについて、具体的にどのような内容で示されているか。
- (事務局) : 各社とも各学年の巻末に様々な工夫がなされている。立体模型を作るものが多い中、特に「啓林館」の1年生の教科書には、「資料の活用」で巻末付録の紙コプターを作って落下速度を予想し、まとめる等、遊びの要素を取り入れ、学習をすすめる工夫がされている。
- (委員) : 生徒が学習意欲を高め、学習習慣を身につけるために配慮されているところはあるか。
- (事務局) : 例えば、「啓林館」1年生の教科書では、「比例」を学習する節の導入部分で、線香を燃やしてその長さを測ってみるなど、日常生活に基づいた学習の導入が章だけでなく節ごとに配置され、細かな学習項目ごとに、学ぶ目的意識や意欲をもって取り組めるような工夫が見られる。
- (委員) : 全国学力調査で、加古川市は数学においては、基礎や基本はある程度できているが、応用や発展問題になると弱いという結果が出ていたと思われる。その点を考慮して、発展学習が充実した内容になっているか。
- (事務局) : 各社とも活用力、応用力を高める工夫がなされているが、とりわけ「啓林館」3年生の教科書では、身に付けた数学的な知識を、身近な例で活用する機会を設けることにより、活用しようとする態度の育成が図れるよう工夫されている。また、巻末にも「読みとる数学」として、資料を読み取り解答を導き出す学習を集めており、活用する力を育成できるように工夫されている。

(数学は、全会一致で「啓林館」の教科書を採択することに決定)

【理科】

(事務局より答申書に基づき説明)

- (委員) : 「身近な生活や社会、歴史や文化の多様な場面における科学の有用性」とあるが、具体的にどのようなものがあるか。
また、スプリング8は取り扱われているか。
- (事務局) : 生活における科学の有用性については、各教科書でも取り扱われているが、「啓林館」1年生の教科書では、切花を長もちさせる工夫や、「混ぜるな危険ってなぜ」のコラム等によって、身近な生活における科学の紹介がある。
また、高度な技術開発の利用としては、残念ながらスプリング8は取り扱われていないが、「啓林館」3年生の教科書には、茨城県東海村にある加速器の紹介がされている。
- (委員) : 「理科を学習する意義が実感できるような話題やコラム等が豊富」とあるが、具体的にはどのようなことか。
- (事務局) : 各教科書ともに、コラムやトピックスを掲載しているが、特に「啓林館」では、「科学の広場」や「科学偉人伝」、「先人の知恵袋」という形で豊富に掲載されている。
例えば、「啓林館」1年生の「科学の広場」の「北陸にあった恐竜王国」は、兵庫県丹波市の恐竜化石の話と合わせることで、生徒の興味・関心を大変高めるものと考えられる。
- (委員) : 子どもの「理科離れ」を防ぐための工夫はあるか。
- (事務局) : 各社とも生徒の興味・関心を高めるために、コラムやトピックスを掲載するとともに、わかりやすい学習ができるよう工夫されている。

特に啓林館は、別冊「マイノート」に特徴がある。例えば、「マイノート」3年では2ページで既習内容を振り返り、「考えよう」で科学的な思考ができるよう配慮し、「基本のチェック」で、用語と理解度を確認できるようにし、「力だめし」で復習がしっかりできるよう工夫されている。「マイノート」を活用し、しっかりとした知識を身に付けることが、理科離れを無くす第一歩と考える。

(委員) : 「啓林館」では様々な自然エネルギーを活用した発電方法が取り扱われており、「エネルギー資源とその利用」について、わかりやすく、幅広く、詳しく記載されている。

(理科は、全会一致で「啓林館」の教科書を採択することに決定)

【音楽一般】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : なぜ、「教育出版」の教科書に変更するのか。「教育出版」が優れていると考えられる点を具体的に教えて欲しい。

(事務局) : 「教育出版」は、大きくて美しい写真が使われていることが特徴的である。

また、収録曲も「教育出版」には70曲、「教育芸術社」には58曲が掲載されている。曲数が多いと、生徒の実態に応じた曲を選択できる上に、多種多様な音楽活動も展開できるので、表現の幅が広がる。

また、このたび、新指導要領に基づき、子どもたちが『日本の歌』を受け継げるよう歌唱共通教材7曲が導入されている。なかでも、音楽1には、「夏の思い出」が掲載されており、歌の舞台である「尾瀬」や、歌詞に登場する水芭蕉や石楠花、野の小径も写真で紹介され、豊かな情操を養うために役立つものとなっている。

(委員) : 「鑑賞」する力を高めるために、どのような工夫がされているか。

(事務局) : 「教育出版」では、各学年折り込み3ページにわたる写真やイラストが掲載されており、鑑賞に関する基礎的な音楽用語や知識が、一目で理解できるようになっている。

また、「教育出版」は楽曲にまつわる写真の雰囲気や、色彩、レイアウト等が優れており、鑑賞の際の参考資料として適していると考えます。

(委員) : 音楽の創作活動を指導する上で、特に工夫されている点はあるか。

(事務局) : 各社とも、創作活動用の題材が設定されている。

中でも、「教育出版」では2・3年生上の「音のスケッチ」で、自分の誕生日や電話番号等、生徒自身の身近な話題をもとに旋律づくりをするという独創的な取組みがあり、音楽の表現の幅を広げる工夫が見られる。

また、グループで手拍子の構成を工夫しながら、一つの曲をグループみんなで作り上げていく創作活動が掲載されている。

(委員) : 最近の音楽では、和楽器を取り入れ、日本の伝統に誇りを持たせるような教育が行われているが、「教育出版」では、その点についての写真等も充実している。

(音楽一般は、全会一致で「教育出版」の教科書を採用することに決定)

【器楽合奏】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 関連していると思われる「音楽一般」と「器楽合奏」に、違う会社の教科書を使用することの根拠は何か。

(事務局) : 「音楽一般」と「器楽合奏」に違う会社の教科書を選定することについて、特に問題はないと考える。

指導する教師の使いやすさという点から選定しており、それぞれの教科書の良さを生かしながら指導していくので、指導上でも特に困ることはない。

協議会の委員の教師からも全く問題ないとの意見があった。

(委員) : 和楽器の演奏は、ほとんどの生徒にとって初めての経験になると思うが、基礎的な技能を確実に身に付けるための工夫はあるか。

(事務局) : 箏の奏法を例にとると、「教育芸術社」の教科書では、全写真に手の動きの軌跡が示されており、弦をこするように弾いたり、はじくように弾いたりする指の微妙な動きまで見て取ることができ、生徒が理解しやすいよう工夫されている。

(委員) : 「教育芸術社」の教科書は、目から音楽を感じることができ、非常にわかりやすい。

(器楽合奏は、全会一致で「教育芸術社」の教科書を採択することに決定)

【美術】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 教科書選定にあたり、一番注目したポイントは何か。

(事務局) : 新学習指導要領の趣旨をもとに、生徒の視点から「楽しく主体的に取り組める内容、構成になっているか」ということと、指導者の視点から「基礎・基本を大切にしながら、応用へと発展に導ける内容、構成になっているか」という2つのポイントを大切にしました。

(委員) : それぞれの教科書の特徴は何か。

(事務局) : 「開隆堂」は、生徒の作品が 300 点と多数掲載されており、「自分にもできる」と生徒の創作意欲をかきたてる構成が特徴的である。また、生徒自身の日常生活と芸術がどのように結びついているのかがイメージしやすいように編集されている。

「日本文教出版」は、生徒作品数では 228 点と「開隆堂」より少ないが、生活や職業との結びつきを重視した構成になっていることが特徴である。

(委員) : 「開隆堂」の教科書は、2・3年上下の2冊を合わせ、1冊にまとめている。使用上、他社との違いは何か。

(事務局) : 「日本文教出版」の2・3年上下別教科書は94ページ、「開隆堂」2・3年まとめた教科書は93ページと、全指導ページに大きな違いはないが、2・3年を1冊にまとめると、指導内容の振り返りや系統立った指導がしやすいという利点がある。

(美術は、全会一致で「開隆堂」の教科書を採択することに決定)

【保健体育】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 性に関する指導や感染症についての内容は充実しているか。

(事務局) : 性に関する指導については、各社ともに氾濫する性情報への対処法や、性感染症の予防法、異性を尊重することの大切さ等、数ページにわたって詳細に記載されている。

また、感染症についても、感染症の症例を挙げながら、その予防法や対策についても分かりやすく説明している。中でも、「東京書籍」は一昨年度大流行した新型インフルエンザについて、絵や写真が入った巻末資料として取り上げたり、身近な話題である学級閉鎖について考える場を設定したりする等、生徒の興味関心を喚起するための工夫がなされている。

(委員) : 薬物や飲酒、喫煙についてどのような扱いがあるのか。

(事務局) : 各社とも取り上げているが、特に「東京書籍」では、「喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処」の単元を設け、ロールプレイングを行い、酒や薬物を勧められた場合の対処法などを実体験する学習を取り入れている。また、兵庫県「東播磨ヤングたばこゼロ作戦」のことも書かれており、生徒も身近に感じることができる。

(委員) : 「大修館」から新しく保健体育の教科書が発行されているが、どのように評価したか。

(事務局) : 「発展」において体験的な学習ができるよう工夫されているが、ページ構成では余白部分が多く、それが逆に見づらいという評価もあり、今回推薦するには至っていない。

(委員) : 教科書は、体育ではどのように使われるのか。

(事務局) : 教科書には体育編として、運動やスポーツの多様性、効果、意義等が掲載されており、それら指導する際に使用する。

(委員) : 健康において目指すべきところは「ウェルネス」であると考えており、どの教科書にも「ウェルネス」に関する記載がないことは残念であるが、「東京書籍」の教科書には加古川市出身の三村仁司さんのことも掲載されていることは、子ども達にとって身近に感じ、興味を惹くものと思われる。

(保健体育は、全会一致で「東京書籍」の教科書を採択することに決定)

【技術】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 学習指導要領の改訂において、技術分野においてはものづくりを重視する教科であることが明確にされているが、「東京書籍」がものづくりの基本となる基礎技能の習得に適していると思われる点はどこか。

(事務局) : どの教科書も加工方法や工程について多くの図を用いて分かりやすく説明されているが、特に、「東京書籍」は文字等のバランスが良く見やすい。また、木工作品の例も他社に比べて多く掲載されていることや、「基礎技能のページ」で、基本的な作業がまとめて分かりやすく説明されている等の配慮が見られる。

- (委員) : 情報モラルなどの取扱いについての配慮はあるか。
- (事務局) : 各社ともに、情報モラルや著作権に関して、生徒の生活に身近な内容のイラストを用いて、モラルの大切さ・重要性をより訴える工夫がなされている。
特に、「東京書籍」では、関連コーナーを設け、技術科の学習内容と、公民や道德などの他教科との関連がわかりやすくなっている。
- (委員) : 道具の適切な使い方や、安全面での配慮はあるか。
- (事務局) : いずれの教科書でも配慮が見られるが、「東京書籍」では、道具の適切な使い方について、「基礎技能のページ」にまとめられている。
また、安全面についても、実習時の安全な服装や、気をつけなければならない点等についての掲載がある。
- (技術は、全会一致で「東京書籍」の教科書を採択することに決定)

【家庭】

(事務局より答申書に基づき説明)

- (委員) : 小学校「家庭科」との接続に関しての配慮はあるか。
- (事務局) : 「東京書籍」では、各領域の導入部分で、小学校で学んだ事に関する記載があり、見通しを持って中学校での学習に取り組めるような工夫が見られる。
- (委員) : 環境問題に関しての取扱いはどうか。
- (事務局) : どちらの教科書も環境教育についての記述があり、グラフ等を活用して解説をしているが、「東京書籍」は、より見やすい円グラフを掲載しているという意見が多かったという報告を受けている。

(委員) : 家庭科は、家庭における実践力を付けていくことが重要だが、実践力をつける工夫があるか。

(事務局) : どの教科書も生徒が自主的に家庭で実践できるような配慮が見られる。特に「東京書籍」では、学習のまとめの中に、「生活に生かそう」というコーナーを設け、家庭における実践につなげていける工夫がされている。また、教科書の巻末に「生活の課題と実践」を設け、自分の生活を振り返り、そこから課題を見つけ、実践につなげる指導ができるようになっている。

(委員) : 体験活動を重視した学習という点で、色々な実習が取り入れられているか。

(事務局) : 学習指導要領の改訂により必修となった「幼児とのふれあい体験」について、いずれの教科書でも掲載がされている。

「東京書籍」では、施設訪問や中学校への招待等の様子が、大きな写真や詳しい説明書きにより紹介されており、実際に体験活動を行うにあたって、生徒がイメージしやすくするよう配慮されている。

(家庭は、全会一致で「東京書籍」の教科書を採択することに決定)

【英語】

(事務局より答申書に基づき説明)

(委員) : 今回、教科書会社が変わる答申内容だが、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、どのような点で「開隆堂」の教科書が優れているのか。

(事務局) : 授業時間数が週4時間に増加されることを受け、質、量ともに充実が図られ、本文ページや言語材料の分量は、週4時間の指導時数に照らして適切であり、年間140時間での指導・学習が余裕をもってできるように編集されている。

各学年の教科書前半に、到達目標を明確に示すことで、学期ごとの到達目標が見え、見通しをもった学習活動ができる。

全学年を通じて1セクションの中に「聞く」「話す」「読む」「書く」活動が配置されており、4技能の総合的な指導を通してコミュニケーション能力の基礎を養うことができる。また、活動の難易度も生徒が無理なくできるレベルで、基礎学力の向上が図れる。

(委員) : 学習指導要領の改訂で、単語数が、900語から1200語に増えたことに対する対応はどのように配慮されているか。

(事務局) : 全学年を通して、新出語句を「覚えて使えるようにするべき語」を太字で、「意味がわかればよい語」を細字で表記しており、生徒にとってはそれぞれの単語の重要度が分かりやすく、学習の効率化が図れるように工夫されている。

新出単語にはチェック欄が設けられており、自己学習を促す工夫もされている。「辞書指導のページ」やコラム、Word Web コーナーも充実し、効率よく語彙の学習を進められるように配慮されている。

(委員) : 小学校外国語活動を踏まえ、小中連携を考慮した内容になっているか。

(事務局) : 入門期の計8ページは文字を導入しておらず、コミュニケーション、会話を中心としたスタートの工夫が見られる。Let's start!は「あいさつ表現」「身近な英単語」「I like～./I can～.」「外来語の英語発音」の4本立てとされ、小学校英語活動と中学校英語との円滑な接続に配慮されている。

また、レッスンごとの目当てが示され、生徒は明確な目標を持って学習できるように構成されている。

(委員) : 中学校の英語において、小学校の英語活動で学んだものが生きてこなければ意味がなくなるが、「開隆堂」の教科書は小学校から中学校へ上手く導入できる工夫が見られる。

(英語は、全会一致で「開隆堂」の教科書を採択することに決定)

【その他の校種】

・小学校用教科書

平成 24 年度使用教科書は、平成 22 年度と同一の教科書を採用すること。

・特別支援学校及び特別支援学級の教科用図書

文部科学省検定済み教科書下学年用等、文部科学省著作教科書を使用する方向で検討し、児童生徒の実態に応じて一般図書を採択すること。

(その他)

(委員) : 今回採択された各教科書の特色を十分に活かした指導を進めるために、教育委員会から各教員へ、それぞれの教科書の特徴や使い方について、しっかりと発信していくことが必要であると考えます。

また、国語で選定された「光村図書」の教科書には、潤沢に推薦図書が掲載されているが、これらの推薦図書を市内図書館に積極的に取り入れ、中学生の学習や、保護者の生涯学習に役立てられるような取組みを教育委員会で進めていってほしい。

(事務局) : 小学校用教科書を選定した際、各教科書の特徴を現場の中で生かす取組みとして、まず教員を指導する立場にある指導主事の中で、各教科ごとに教科書の特徴について共通理解を図り、それを教科部会や授業研究の指導の際に現場の各教員に発信していった。

中学校でも同様に、各教科書の重要なポイントを現場に生かすような取組みをしていきたいと考えている。

また、読書に触れる機会を増やし、子ども達の活字離れを防ぐために、今回、推薦図書を多く取り扱った「光村図書」を選定しているので、その推薦図書を可能な限り図書館に取り入れることや、年次計画の中で、実際に読む機会を設ける取組みを各関係機関と連携しながら進めていきたい。